

山家悠紀夫『景気とはなんだろうか』岩波新書 2005 年

第 5 章 「構造改革」と景気

問題提起

「先に、1997 年以降、企業部門の改善が家計部門の改善に結びつきにくくなっており、『景気の自律的メカニズムが壊れた』ことを見た。昨今の『構造改革』政策は その壊す作業に加担し、壊しを加速させているとも言えるのである」(P 157,L4) とあるが、景気を回復させようとして行った構造改革が景気の拡張を抑制してしまったのはなぜか。

選んだ理由 景気を回復させることが出来なかったのならまだしも、目的とは正反対の結果をもたらしてしまったのは何故かを考えることは、同じような間違いを引き起こさないようにする上で、重要だと感じたから。

D グループ

構造改革により規制緩和された結果、企業間で格差が拡大し企業は保身に走り、家計に対する分配を下げるようになる。さらに公共投資の削減により地域間格差の拡大を引き起こし、その結果、需要 が伸びない原因の 1 つとなった。

C グループ

「構造改革」によって不良債権処理の促進政策を行なって企業倒産や金融機関経営の破綻を増加させてしまったことや、公共投資の削減によって「地方」と「中央」の格差が広がってしまったこと、「構造改革」政策の下で行われた労働基準法改正その他、労働規制緩和が景気の拡張の抑制に影響したから。

B グループ

橋下改革から小泉改革へと続く年金の改革や消費税率の引き上げなどの構造改革政策による国民への負担が高まり家計の消費需要が減り、景気拡張の抑制に繋がった。

C グループ

構造改革の「停滞分野が余分に抱えている経済資源を成長分野に移動する」という方針が成功しなかったのは、停滞分野が多くの経済資源を抱えていたという認識が間違っており、成長のための資源が調達できなかったからではなく、その成長を導くほどの 需要 がなかったからである。また、それほど 需要 がなかった原因は、「構造改革」政策の下で年金改革などが行われたことで、国民の負担を高めたことであるため、景気の拡張を抑制してしまった。

小林コメント：マクロ経済の需要の中心である「消費需要」への注目が重要です。